自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：ニチイケアセンター天保山　　作成者：矢澤　勇

作成日：　2024年　1月　5日　　運営推進会議における評価実施日：　2024年　1月16日

（事業所としての自己評価日）

凡例　A. 充分にできている　B. ほぼできている　C. あまりできていない　D. ほとんどできていない　※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	C	スタッフによっては少し言葉が馴れ馴れしくなってしまうときもあると意見あり。	B	
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	C	3交代という事もあり、なかなか一人一人の意向を叶えているとは言い難いという意見もあり。		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	C	出来る方にはなるべく盛り付けや片付けなど手伝って頂いている。	B	
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	C	認知症の進行もあり、栄養バランスよく摂取さえている方ばかりではない。なるべく経口摂取・おいしく食事を摂って頂けるよう声を掛けているが、気分のムラや体調の波など入居者様全員は難しくなっている。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	B	毎食後口腔ケアを声掛け、歯科医師とも連携して抜けそうになっている歯の情報共有をしている。	B	
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B	主治医と連携して緩下剤の調整、なるべく気持ちよく排泄・生活できるよう声を掛けたり必要なパットのみ使用したり一人一人に合わせてケアしている。	B	
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	B	体調不良の時は一部清拭対応をしたり、一人ずつゆっくりと入浴できるよう声を掛けている。		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B	ご高齢という事もあり、一人一人に合わせて昼間に居室で休んで頂いたり、夜間眠れない時はスタッフが話を聞き対応している。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B	内服薬が変更になる際はスタッフに周知、注意点も主治医から聞きスタッフに伝えている。	B	
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B	ご家族様やご本人様に今までしてきた仕事や家庭での役割など聞き取り、ホームで出来ること・得意なことなど取り組んでいる。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	C	コロナウイルス感染症の流行で外出の機会が少なくなっていたが、5類に移行後少しずつ外出頻度は増えてきている。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	B	お小遣いは事務所内で事務員・管理者で保管・必要時にお渡し・代行して個人で必要な物を購入している。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	電話があればその都度取り次ぎ、携帯電話を持っている方でかけ方が分からない方はスタッフが代わりに電話をかけて取り次ぐなど支援している。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	月ごとに壁の掲示物やイベントの写真を貼り替えたり、今何月なのかわかるように配慮。トイレの場所など文字を大きくして読みやすいようにしている。	B	

受付
－6.1.19
大阪市福祉局
介護保険課

帳票C

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

事業所名：ニチイケアセンター天保山　　作成者：矢澤　勇

作成日：　2024年　1月　5日　　運営推進会議における評価実施日：　2024年　1月　16日

（事業所としての自己評価日）

凡例　A. 充分にできている　B. ほぼできている　C. あまりできていない　D. ほとんどできていない　※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
Ⅰ.理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	事業所内に理念を掲示、馴染みの関係を構築できるよう努めている。	A	
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	C	コロナウイルス感染症の影響もあり、地域との交流は少なくなっている。	B	
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	C	以前は対面で運営推進会議を行っていたが、現在は書面にて開催。	C	
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	C	コロナウイルス感染症の影響もあり、地域との交流は少なくなっている。	B	
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B	身体拘束についての研修を実施、会議内でも身体拘束に該当しないか話し合っている。	B	本人の意向を優先した とりくみがされている
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	B	身体拘束適正化委員会などで定期的に身体拘束について検討。	B	
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	C	成年後見制度を利用されている方はいるが、職員一人一人にまで周知は徹底できていない。	B	
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	B	契約内容が変更になる際はその都度説明、通知している。契約時・入居後も疑問点など質問があればその都度説明している。	B	
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	C	一部のご家族様から意見を頂いて、毎月のご報告など改善した点はあるがすべての方から意見は頂いていないので要望を聞き取りきってはいない。	B	
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	毎月のホーム会議内で、運営状況をスタッフに周知。個々人に特定の話題は設けずに意見を聞くようにしている。	B	
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B	社内の手当や有給休暇など極力取得できるように声を掛けている。	B	
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	毎月職員研修を実施、地域の病院主催のスキルアップ研修も勧めている。	B	
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C	港区施設連絡会に参加、毎月は参加できていない。	A	
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	C	スタッフの意見として、転倒事故を防ぐために少し介護をしすぎている部分もお客様によっては見受けられる。	A	
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B	ご家族と外出・外泊する機会を確保。外出した際に馴染みの美容院などにも行かれている。	B	

ニチイ学館

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：ニチイケアセンター天保山　　作成者：矢澤　勇

作成日：　2024年　1月　5日　　運営推進会議における評価実施日：　2024年　1月16日

（事業所としての自己評価日）

凡例　A. 充分にできている　B. ほぼできている　C. あまりできていない　D. ほとんどできていない　※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
Ⅱ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	あまり自分の気持ちを表に出されない方が往診の際に「さみしい。」とポツリと話したことなど、会議の場でも何を話しているのか聞き取るようにしている。	B	
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B	毎月カンファレンスを開催。ホームでの看取りに希望やご家族様と話した際にあった要望などスタッフにも周知するようにしている。	B	
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	C	細かなことは会議の場でも話したり聞き取りは出来ているが、介護記録には記載がない事もある。	B	
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	B	急な通院対応など、ご家族様の対応が難しい時は相談して代わりに対応するなどホームで出来る範囲では対応している。	B	
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	C	コロナウイルスが流行する前はボランティアなど交流があったが、今は途絶えてしまっている。	B	
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	B	入居時にホームの主治医が往診。外部の医療機関とも連携して、入居後も通院に行かれたり診療情報提供書などでやり取りしている。	B	
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B	入院した際も病院と連絡を取り入院中の様子を聞き取り。適時退院前カンファレンスを依頼して病院にも足を運んでいる。	B	
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B	主治医とも連携して、早い段階で現状を説明。ご家族様にも往診時に同席を依頼して終末期や延命治療などについて希望を聞いて話し合っている。	B	看取りも実施されていて家族からの信頼もある
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	C	研修でも急変時の対応について実施。同法人内で起きた事故についても適時周知してホームでの対策を考えているが、実践力を身に付けているという点では不安がある。	B	
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	C	災害対策の訓練は行っているが、夜間に人手が少ない時に災害が起きた場合不安が残る。少ない人手でも出来る対策が今後の課題。	B	

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：ニチイケアセンター天保山　　作成者：矢澤　勇

作成日：　2024年　1月　5日　　運営推進会議における評価実施日：　2024年　1月　16日

（事業所としての自己評価日）

凡例　A. 充分にできている　B. ほぼできている　C. あまりできていない　D. ほとんどできていない　※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
Ⅳ. 本人の暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	B	カンファレンス時にも「何か困っている事はないですか。」等聞き取り。		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	B	ご本人様が暮らしてきた歴史・人間関係などご本人様・ご家族様から聞き取り、普段の声掛けに話題にしている。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	B	普段の会話の中で体調面に不安に思っていることを往診時に主治医に相談。	B	
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	C	一人で暮らしてきた方もいるので、共同生活となると少し我慢している部分もあると思われる。		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができている	B	お仏壇・タンスなど自宅で使用していたもの、お箸やコップなど馴染みのものを使われている。入居時にご家族様にも説明している。	B	
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができている	B	「○○に行きたい。」などご家族様にも伝え、外食や外泊など以前よりは増えている。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	B	気分の波もあるが、一人一人に合わせて出来ること（家事・炊事など）を手伝って頂いている。		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	B	歌が好きな方が多いので、懐かしの歌謡曲や唱歌など合唱する機会を意識して持つようにしている。	B	
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	C	以前は近くのパン屋さんにご家族の方と一緒に外出する事があったが、今は出来ていない。		
49	総合	本人は、このGHにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	B	時にはお客様同士で口論になりかける時もあるが、冗談を言ったり好きな特定のスタッフがいたりと喜怒哀楽を表現して生活されている。	B	

総評

地域の認知症高齢者の暮らしの場として確立されています。今後認知症サポーター講座など地域連携にも力をおかいただければ幸いです。

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

ご指摘の通り、地域連携の点において、役割が出来ていない。地域からの相談、認知症の方だけでなく介護で困っている方の悩みを聞いたり、地域包括支援センター居宅支援事業所へつなげたりなど。

参加者サイン欄

港区南部地域包括支援センター　山際直子

ニチイケアセンター天保山　矢澤勇

ニチイ学館